

みんなのひろば

Message



市民と編集担当者のおしゃべりコーナー「みんなのひろば」です。より親しみやすい広報紙をめざして、みなさまからいただいたメッセージを紹介していきます。今回は、前号（56号）のクイズ応募ハガキからです。

▼いつも楽しく拝読させていただいております。私も古稀を迎え、高齢者の仲間入りをして日々、体力の衰え、物忘れ、あれこれ数え切れないくらい年を実感しております。残りの人生、後は終活の準備かな？（70代）

▼私自身「寄る年波」を実感しながら過ごす日々。上手に「老い」と付き合おうのがコツとの先輩方のありがたいアドバイスも少し切ない。今号の人権の眼は終活がテーマです。よいヒントがあるでしょうか。

▼くらしのトピックス⑩「ひきこもり」を考えるの記事を読んで「8050」の文字に目が止まりました。

した。この問題の背景には子どもの「引きこもり」があり、当時、若者の問題とされていたものが、長期高齢化したものです。川崎20人殺傷事件等でクローズアップされたこの8050問題を決して他人事と思わず、まずは自らの子育てを見直して行く必要があるのではないのでしょうか？子どもの自立を促すのは親の責務なのだから。（50代）

▼比較的高齢のひきこもりが大きな注目を集めた今回の事件。トピックス記事の「1000人に一人がひきこもり状態にある」ということも衝撃でした。

問題の性格上、なかなか表面化しないひきこもりですが、子どもを守りたい気持ちがかえって社会から遠ざける結果となるのは悲しいこと。ひきこもりに苦しむ大人や子どもへの支援について考えを巡らす毎日です。

▼毎回発行される人権広報紙を心待ちにしている一人です。人権は幅広く奥深く山積されていますが子供達のポスターに心癒さ

れほつとします。当たりますように！（80代）

▼おっしゃるとおり人権は、その幅広さ、奥深さが問題のつかみどころを難しいものになっていると思います。その難しい部分を少しでも分かりやすく皆様にお伝えし、問題解決へとつながればとの思いで取り組んでいます。ポスター・標語入選作品は、引き続き掲載していきます。お楽しみに！

▼母校の北淡中学校が表紙に載ってとつてもうれしかった。紺社先生が率いる北中の全国大会出場おめでとうございます。（10代）

▼選手、監督、保護者そして関係の方たちが一丸となつてつかみ取った全国大会出場、本当におめでとうござります。

今回、若い方からのお便りも多く係一同たいへんうれしく思っています。今後とも、まるごとじんけんをよろしく願います。

《メッセージをお寄せください》

クイズ応募ハガキ、FAXやメールでお知らせください。

TEL 799-64-2567
FAX 799-64-2528
Eメール：awaji_jinken@city.awaji.lg.jp

くらしのトピックス⑩
淡路市社会福祉協議会
シリーズ②

「ひきこもり」を考える

前号では、今年3月に発表された内閣府の推計によると、日本全国に「ひきこもり」状態にある人が推計で115.4万人。総人口に占める割合が0.91%であることをお知らせしました。この割合を淡路市の人口にあてはめると400人近い人数になります。

これらの課題に対し淡路市では、「ひきこもり問題に係る検討委員会」を平成29年8月に立上げ調査検討を行っています。社会福祉協議会では、検討委員会を通じて、ひきこもり状態にある家族がそれぞれの気持ちや様子を分かち合う『家族会』を開催（奇数月第4火曜日）しています。淡路市は、今年4月から本庁2号館1階の市民人権課にひきこもり支援の窓口を設置しました。

現在、ひきこもり支援のために必要な情報や活動事例の収集を行なうとともに、見守りや支えあいの仕組みづくり、ひきこもり状態からの脱却のための居場所や就労に向けたトレーニングの場の検討を行っています（次号につづく）

ぼいん 手話 第46回

手話は、ろうあ者が日常生活しているコミュニケーションの方法です。このコーナーでは、手話やろうあ者の生活等を紹介していきます。



ろうあ者の日常生活を知ろう②

幼稚園から淡路聾学校（現あわじ特別支援学校）に通いました。小学部1・2年生のときは、家族と離れ寄宿舎で生活し、3年生から中学部までは自宅からバス通学するようになりました。高等部は島外（兵庫県では神戸と姫路）にしかないの、寄宿舎生活でした。楽しいことも寂しく思うこともありましたが、今では懐かしい思い出です。

協力：淡路聴力障害者協会
手話サークル津名